



Cisco Webex ハイブリッドメッセージサービスの導入

- [Cisco Webex クラウドへの Expressway-C コネクタホストの登録 \(1 ページ\)](#)
- [メッセージコネクタ用のアプリケーション アカウントの構成 \(5 ページ\)](#)
- [IM およびプレゼンスサービス への接続の設定 \(5 ページ\)](#)
- [起動 メッセージコネクタ \(6 ページ\)](#)
- [コネクタのステータスの確認 \(7 ページ\)](#)
- [ユーザに対する ハイブリッドメッセージサービスの有効化 \(7 ページ\)](#)
- [Test ハイブリッドメッセージ サービス \(8 ページ\)](#)

Cisco Webex クラウドへの Expressway-C コネクタホストの登録

Cisco Webex ハイブリッドサービスは、Expressway-Cでホストされているソフトウェアコネクタを使用して Cisco Webex を組織の環境に安全に接続します。この手順に従って、Expressway-C リソースをクラウドに登録します。

登録手順を完了すると、コネクタソフトウェアがオンプレミスの Expressway-C に自動的に導入されます。

始める前に

- Expressway-Cがハイブリッドサービスにサポートされているバージョンで実行されていることを確認します。クラウドへの新規または既存の登録でサポートされているバージョンについては、ドキュメント「[Supported Versions of Expressway for Cisco Webex Hybrid Services Connectors](https://collaborationhelp.cisco.com/article/ruyceab)」 (<https://collaborationhelp.cisco.com/article/ruyceab>) を参照してください。
- 他のブラウザタブで開いている、Expressway-C インターフェイスとのすべての接続からサインアウトします。
- オンプレミス環境で発信トラフィックを代替処理している場合、最初に [アプリケーション (Applications)] > ハイブリッド サービス > [コネクタプロキシ (Connector Proxy)]]

にプロキシサーバの詳細情報を入力してから、この手順を行う必要があります。正常に登録を行うには、こうすることが必要です。

手順

ステップ 1 <https://admin.webex.com> の顧客ビューから [サービス (Services)] に移動して、次のいずれかを選択します。

- これが登録する最初のコネクタホストの場合、導入対象のハイブリッドサービスのカードで [セットアップ (Set up)] をクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。
- 1 つ以上のコネクタホストをすでに登録している場合、導入対象のハイブリッドサービスのカードで [すべて表示 (View all)] をクリックし、[リソースの追加 (Add Resource)] をクリックします。

Expressway Web インターフェイスからの登録時に、Cisco Webex クラウドはすべての試行を拒否します。まず、Cisco Webex Control Hub を使用して Expressway を登録する必要があります。これは Control Hub がオンプレミスとクラウド間の信頼関係を確立して登録を完了するために、Expressway にトークンを渡す必要があるためです。

ステップ 2 Expressway-C の登録方法を選択します。

- **新規の Expressways** : [完全修飾ドメイン名 (FQDN) で新規 Expressway を登録する (Register a new Expressway with its Fully Qualified Domain Name (FQDN))] を選択し、Expressway-C の IP アドレス、または完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。Cisco Webex は該当する Expressway-C のレコードを作成して信頼を確立するので、[次へ (Next)] をクリックします。Cisco Webex Control Hub でリソースを識別するための表示名を入力することもできます。

注意 クラウドに正しく登録するために、Expressway-C に設定するホスト名は小文字のみにします。現時点で大文字はサポートされていません。

- **既存の Expressways** : [既存の Expressway クラスタを選択してこのサービスにリソースを追加 (Select an existing Expressway cluster to add resources to this service)] を選択し、以前登録したノード、またはクラスタをドロップダウンから選択します。これは、1 つ以上のハイブリッドサービスの実行に使用できます。

ヒント クラスタを登録する場合は、プライマリピアを登録します。他のピアを登録する必要はありません。プライマリを登録すると自動的に登録されます。最初にあるノードをプライマリとしてセットアップする場合でも、その後の追加でシステムを再起動する必要はありません。

ステップ 3 [次へ (Next)] をクリックし、新規登録の場合はリンクをクリックして Expressway-C を開きます。その後、サインインして [コネクタの管理 (Connector Management)] ウィンドウをロードします。

ステップ 4 Expressway-C 信頼リストの更新方法を決定します。

[ウェルカム (welcome)]ページのチェックボックスによって、必要なCA証明書を Expressway-C 信頼リストに手動で追加するのか、それらの証明書を Cisco Webex に追加させるのが決定されます。

次のいずれかのオプションを選択します。

- Cisco Webex によって必要な CA 証明書を Expressway-C 信頼リストに追加する場合は、このボックスをオンにします。

登録すると、Cisco Webex クラウド証明書に署名した機関のルート証明書が自動的に Expressway-C にインストールされます。これは、Expressway-C が自動的に証明書を信頼し、セキュアな接続をセットアップできる必要があることを意味します。

(注) または、[コネクタ管理 (Connector Management)]ウィンドウを使用して、Cisco Webex クラウド CA ルート証明書を削除し、手動でルート証明書をインストールすることができます。

- Expressway-C 信頼リストを手動で更新する場合は、このボックスをオフにします。手順については、Expressway-C オンラインヘルプを参照してください。

注意 現時点で信頼リストに適切な CA 証明書がない場合は、登録すると証明書の信頼エラーが表示されます。[ハイブリッドサービスの認証局 \(4 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 5 [登録する(Register)] をクリックします。Cisco Webex Control Hub にリダイレクトされたら、画面上のテキストを読んで、Cisco Webex が正しい Expressway-C を識別したことを確認します。

ステップ 6 情報を確認したら、[許可 (Allow)] をクリックして、Expressway-C を Cisco Webex ハイブリッドサービスに登録します。

- 登録には、Expressway の設定内容および初めての登録かどうかによって最大5分かかる場合があります。
- Expressway-C が正常に登録されると、Expressway-C 上の Cisco Webex ハイブリッドサービスウィンドウに、コネクタのダウンロードとインストールが表示されます。使用可能な新しいバージョンがある場合は、管理コネクタが自動的にアップグレードしてから、Expressway-C コネクタホスト用に選択された他のコネクタをインストールします。
- 各コネクタは、そのコネクタの設定と有効化に必要なインターフェイス ページをインストールします。

このプロセスには数分かかる可能性があります。コネクタがインストールされると、Expressway-C コネクタホスト上の [アプリケーション (Applications)]>ハイブリッドサービス メニューに新しいメニュー項目が表示されます。

トラブルシューティングのヒント

登録が失敗し、オンプレミス環境で発信トラフィックを代理的に処理する場合は、この手順の「はじめる前に」セクションを確認してください。登録プロセスがタイムアウトまたは失敗し

た場合（証明書エラーを修正する必要がある場合やプロキシの詳細を入力する必要がある場合など）は、Cisco Webex Control Hub で登録を再開できます。

ハイブリッドサービスの認証局

次の表に、Cisco Webex ハイブリッドサービスを使用する場合にオンプレミスまたは既存の環境で信頼しなければならない認証局を記載します。

必要な証明書を Cisco Webex に管理させる場合は、手動で CA 証明書を Expressway-C 信頼リストに追加する必要はありません。



- (注) Cisco Webex ホスト証明書の署名に使用する発行元は将来変更される可能性があります。その場合、以下の表の正確性は失われる可能性があります。CA 証明書を手動で管理している場合は、次に示すホストの現時点で有効な証明書に署名した証明書発行元の認証局の CA 証明書を追加する（および有効期限が切れていたり、失効している CA 証明書は削除する）必要があります。

この CA が署名したクラウドホスト	発行元 CA	信頼先	目的
CDN	O = Baltimore, OU = CyberTrust, CN = Baltimore CyberTrust Root	Expressway-C	Expressway が信頼されたホストからコネクタをダウンロードするようにするため
共通アイデンティティサービス	O = VeriSign, Inc., OU = Class 3 Public Primary Certification Authority	Cisco Directory Connector をホストしている Windows Server 2003 または Windows Server 2008 Expressway-C	Active Directory のユーザと Cisco Webex を同期し、Cisco Webex ハイブリッドサービスのユーザを認証する
Cisco Webex	O = The Go Daddy Group, Inc, OU = Go Daddy Class 2 Certification Authority	Expressway-C	

関連トピック

[Cisco Webex でサポートされている認証局](#)

メッセージコネクタ用のアプリケーションアカウントの構成

Cisco Unified Communications Manager IM およびプレゼンスサービスの AXL API にアクセスするためのメッセージコネクタ用のアカウントを構成します。メインの管理者アカウントではなく、独立した管理者アカウントを使用する必要があります。このアカウントの詳細を覚えておいてください。後で、メッセージコネクタ構成に入力する必要があります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] に移動し、次のいずれかを選択します。

- [検索 (Find)] をクリックし、Cisco Unified Communications Manager IM およびプレゼンスサービスとの通信にコネクタが使用する管理者アカウントをリストから選択します。
- [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しいアプリケーションユーザアカウントを作成します。

ステップ 2 標準 AXL API アクセスロールを割り当てたアカウントを構成します。

ステップ 3 [保存(Save)] をクリックします。

IM およびプレゼンスサービス への接続の設定

ハイブリッドメッセージサービスを有効にするには、パブリッシャノードのサーバ情報を入力して、メッセージコネクタを IM およびプレゼンスサービス クラスタにリンクする必要があります。この手順では、IM およびプレゼンスサービス と Cisco Webex クラウド間のブリッジを作成し、コネクタを 2 つの間のブローカとして動作させます。

ハイブリッドメッセージサービス用に使用している各 Expressway クラスタで、プライマリノードにサインインして、次の構成を完了します。

始める前に

- [メッセージコネクタ用のアプリケーションアカウントの構成 \(5 ページ\)](#)
- Expressway 上のコネクタは、ハイブリッドメッセージサービスクラスタとクラウド間に耐障害性のある接続を維持します。必要なのは、パブリッシャを Expressway-C コネクタ構成に追加することだけです。クラスタ内で特定のノードがダウンした場合は、コネクタが別のサーバに移動します。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] > [ハイブリッドサービス (Hybrid Services)] > [メッセージサービス (Message Service)] > [メッセージサービスの構成 (Message Service Configuration)] に移動します。
- ステップ 2** [新規 (New)] をクリックします。
- ステップ 3** 有効な Cisco AXL ウェブ サービスがある IM およびプレゼンスサービス パブリッシャ ノードのホスト名または IP アドレスを入力します。
- コネクタは、AXL を使用して、パブリッシャにクエリを実行し、クラスタ内の他のノードを発見します。
- ステップ 4** IM およびプレゼンスサービス パブリッシャ上に作成したメッセージコネクタ AXL アカウントのクレデンシャルを入力します。
- (注) これは、メインの管理者アカウントである必要はありません。メッセージコネクタ用のアカウントを明示的に作成する必要があります。
- ステップ 5** (省略可) Expressway でパブリッシャノードからのサーバ証明書のチェックを省略する場合は、[証明書の検証 (Certificate validation)] を [無効 (Disabled)] に変更します。
- 証明書の検証が有効になっている場合 (デフォルト)、IM およびプレゼンスサービス ノードからの tomcat 証明書は有効であり、Expressway が信頼する CA によって署名されている必要があります。自己署名証明書を使用している場合は、それを Expressway の [信頼できる CA 証明書 (Trusted CA certificate)] リストにコピーします。
- ステップ 6** [追加 (Add)] をクリックして、コネクタの構成を Expressway-C に保存します。
- ステップ 7** Expressway クラスタを他の IM およびプレゼンスサービス クラスタに接続する必要がある場合は、このタスクを繰り返します。
-

次のタスク

[起動メッセージコネクタ \(6 ページ\)](#)

起動メッセージコネクタ

IM and Presence パブリッシャと AXL アカウントを設定してコネクタを構成した後、メッセージコネクタを手動で有効にします。

手順

ステップ 1 Expressway-C から、[アプリケーション (Applications)] > ハイブリッド サービス > [接続管理 (Connector Management)] と移動して、[メッセージコネクタ (Message Connector)] とクリックします。

ステップ 2 [アクティブ(Active)] ドロップダウン リストから [有効(Enabled)] を選択します。

ステップ 3 [Save] をクリックします。

コネクタが起動し、[コネクタの管理 (Connector Management)] ウィンドウのステータスが [実行中 (Running)] に変わります。

コネクタのステータスの確認

ハイブリッドメッセージサービスに対してユーザを有効にする前に、メッセージコネクタが実行されていることを確認します。

手順

Expressway-C から、[アプリケーション (Applications)] > ハイブリッド サービス > [メッセージサービス (Message Service)] > [メッセージサービスのステータス (Message Service Status)] に移動します。[ステータス (Status)] の設定項目を確認します。

次のタスク

[ユーザに対するハイブリッドメッセージサービスの有効化 \(7 ページ\)](#)

ユーザに対するハイブリッドメッセージサービスの有効化

ハイブリッドメッセージサービスに対して Cisco Webex Teams ユーザを一度に 1 人ずつ有効にするには、次の手順を使用します。

一括 CSV テンプレートの使用や Cisco Directory Connector 経由の Active Directory 同期などの他の方法については、「*Ways to Add and Manage Users in Cisco Webex Control Hub*」

(<https://collaborationhelp.cisco.com/article/nj34yk2>) を参照してください。



- (注) 一括インポートまたはディレクトリ同期によってユーザをインポートする場合、送信元システムにユーザの電子メールアドレスが登録されている必要があります。Cisco Webex ユーザ ID にはユーザの電子メールアドレスをマッピングするため、ユーザが Cisco Webex Teams に使用するアドレスでなければなりません。

ユーザの電子メールアドレスが IM およびプレゼンスサービス になければ、メッセージコネクタはそのユーザを検出できません。したがって、ハイブリッドメッセージサービスはそのユーザに対して機能しません。

Cisco Directory Connector を使用して、選択した属性（たとえば、メール属性や userPrincipalName 属性など）を Cisco Webex UID にマッピングすることはできますが、属性の値はユーザの電子メールアドレスであることが必須です。

手順

- ステップ 1** <https://admin.webex.com> の顧客ビューから [ユーザ (Users)] に移動し、リストから特定のユーザを選択するか、検索を使用してリストを絞り込み、該当する行をクリックしてユーザの概要を表示します。
- ステップ 2** [編集 (Edit)] をクリックし、少なくとも 1 つの有料サービスがユーザに割り当てられていることを [ライセンスコラボレーションサービス (Licensed Collaboration Services)] で確認します。必要な変更を加えて、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 3** [コールサービス (Message Service)] をクリックし、設定を切り替えてオンにし、変更を保存します。

ユーザが Webex Teams から Cisco Jabber にメッセージを送信できるようになるまでに、最大 1 時間の遅延が発生します。

Test ハイブリッドメッセージサービス

始める前に

ハイブリッドメッセージサービスが有効にされている 2 人以上のユーザが必要です。ユーザのマシンに Cisco Jabber と Cisco Webex Teams がインストールされている必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	一方のユーザが Webex Teams クライアントを開きます。	この手順では、このユーザをユーザ A または Alice と呼びます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	もう一方のユーザが Cisco Jabber クライアントを開きます。	この手順では、このユーザをユーザ B または Bob と呼びます。
ステップ 3	Alice の Webex Teams クライアントから Bob の Jabber クライアントにメッセージを送信します。	
ステップ 4	メッセージが Bob の Jabber クライアントに到着して、Alice のステータスが [応答可能 (Available)] として表示されることを確認します。	
ステップ 5	Bob の Jabber クライアントから Alice の Webex Teams クライアントに応答します。	
ステップ 6	Alice の Webex Teams クライアントに Bob が入力中であることが示されることを確認します。	
ステップ 7	Alice の Jabber クライアントと Bob の Webex Teams クライアントでテストを繰り返します。	

